

(平成27年10月20日)

## 第14回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H27. 10. 20 (火) 18:30~20:30  
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F B会議室  
出席者 : 16名

### < 配布資料 >

●防衛大学の『英国歩兵練法』～<岡田渉さん作成の(レジメ)>

(資料1) 防衛大学図書館だより

(資料2) 龍馬タイムズ40号～坂本龍馬秘蔵か? 英国歩兵練法の原書

(資料3) 西洋銃の技術開発

(資料4) 赤松 薩摩本「譯例」末尾の署名 原書調査で出くわしたこと⇒  
赤松小三郎の知名度の低さ

●「堀直虎公傳」岩崎長思著 抜粹 南郷茂光著「英国歩兵練兵書」堀直虎の序文

●10月5日読売新聞夕刊記事「旅」真田氏の原点 天然の岩

### < 内容 >

#### 1 事務局より

##### 1) 新規会員の紹介

市川憲(あきら)さん・(石川浩氏ご友人、幕末史、太平洋戦争に興味)

河元(かわもと)由美子さん・(日本英学史学会 支部長。なお、河元さんは準会員です。常時、出席ではありません)

##### 2) 10月27日(火)発売「週刊朝日」の真田丸特集の中に宮原安春さん(58期)執筆の赤松小三郎の記事が掲載されますのでお読みください。

##### 3) 12月15日(火)の研究会は時代劇短編映画「なまくら NAMAKURA ～京在日記秘録～」を上映する予定。

#### 2 防衛大学の『英国歩兵練法』～岡田渉さん(64期)発表

横須賀の防衛大学情報図書館に赤松小三郎の完訳本「重訂英国歩兵練法」(赤本)

とその英文原著が所蔵されていることが分かり、岡田渉さんが出向き、調査した調査報告。

##### 1) 完訳本と英文原著が防衛大学情報図書館に渡った経緯

●完訳本(赤本):昭和42年に防衛大学図書館が購入

●英文原著:「致道館」(高知藩)→高知中学校→吉松靖容氏→上田修一郎防衛大学元教授→防衛大学情報図書館。戦後の混乱期に散逸を危惧した吉松氏が保管し、上田修一郎教授を介して昭和40年、防衛大学情報図書館に寄贈された。

##### 2) 防衛大学の英文原書は3冊あり、それぞれ

① 「Manual of Artillery Exercises 1860」、

② 「Manual of Field Artillery Exercises 1861」、

③ 「Field Exercises and Evolutions of Infantry(1862)」

③が赤本の原書。

- 3) 防衛大学の赤本は7編9冊全巻揃っている。
- 4) 河元由美子さんが Pocket 版（携帯用）の英文原書をご持参。
  - ・河元さんが大変珍しい英文原書をお持ちくださり、一同、貴重な本を見せていただき感動した。ご友人が Amazon でご購入された由。
  - ・翻訳本は木版であるが、彫師は精巧な技術の持ち主だ。ラップ譜図のト音記号など大変よく出来ている。(河元さん)
  - ・付図の兵隊の顔つきが、青本の方はふっくらしているが、赤本の方は厳しい顔つきに彫られており、彫師はそれぞれ別人と思える。(河元さん)  
(青本は、江戸日本橋の山城屋佐兵衛発兌、赤本の製本所は薩摩鹿児島下中町吉田源左衛門と大阪心斎橋通安堂寺街 秋田屋太右エ門。)
- 5) 防衛大学情報図書館の英文原書「Field Exercises and Evolutions of Infantry(1862)」の遍歴

出典 防衛大学情報図書館では以下のように紹介されている。

・・・原書は赤松から坂本龍馬の手に渡り、土佐藩を經由した後、高知県出身の故上田修一郎防衛大学教授を介して防大図書館に寄贈された。貴重書庫には、赤松が翻訳に使用した原著とその完訳本が、肩を並べて保管されています。(防衛大学校同窓会 記事より抜粋)

参考資料「防衛大学校図書館だより」Vol8 No.1 では元防衛大学図書館職の安達将孝氏が上田修一郎防衛大学教授から聞いた話として「坂本龍馬の秘蔵図書であった」という伝聞が伝わっている。さらに「龍馬タイムズ40号」の著者は、赤松→龍馬→致道館（土佐藩）→高知中学校→吉松靖容氏→上田修一郎教授→防衛大学図書館のルートを解説し、慶応2年、京都薩摩藩邸で赤松から龍馬に贈られたものとしている。

しかし、この防衛大に収められている原書が本当に赤松愛用のモノという査証は不明そこで、下記の通り予想。

予想① 英文原書は薩摩藩から貸与されたもの(従って上田藩返却の遺品書籍に英文原書が入っていない)。この薩摩藩所有赤松愛用の原書がなんらかの経緯で土佐に渡った。

予想② 赤松は下曾根版翻訳時から原書を持っていた。暗殺後、証拠書類焼却の難を逃れ、秘密裏に土佐藩の書庫へ収まった。(象山に原書入手の手紙を出している)

予想③ 龍馬と赤松に接点があり、京都の薩摩藩邸で赤松から龍馬へ渡った。  
しかし龍馬は兵書など荷物になる物は持ちたがらないので無理筋かも知れない。但し、意外と薩摩藩邸内でお互いの噂くらいは耳にしていたかもしれない。

⇒建白7策と船中八策酷似の伏線。

予想④ この英文原書は(他5冊含め)土佐藩が独自に購入したもの。

但し幕府は慶応2年5月フランス式を決定しているので、薩摩のように英国式を翻訳活用する機会はなかった。

⇒致道館(文久2年～明治2年)蔵書の印は秘密の書籍でない証拠では?

その他、幕末の洋式銃と歩兵訓練・兵制改革などから赤松小三郎の評価形成について発表があった。

- 6) 石川浩さんから「法政大学大原社会問題研究所の向坂文庫」に翻訳本があるとのことで、10月23日、石川さんと小山とで法政大学多摩キャンパスへ出向き調べてきました。その結果、向坂文庫(向坂逸郎(さきさかいつろう)氏が収集した約7万冊の図書)の中にある青本、赤本は以下の通りです。(原本はかなり虫食いがあり、脆い状態でしたが、写真撮影はできました)

(青本) 全8冊の内6冊が保管されている

第一編

第二編

第四編 卷之一

第四編 卷之二

第四編 附圖

第五編

(第三編の上、下が欠落)

(赤本) 全9冊の内6冊が保管されている

第一編

第二編

第三編 上

第三編 下

第四編 上

第四編 下

(第五編、第六編、第七編が欠落)

- 8) 岩崎長思著「堀直虎公傳」の記述に、南郷茂光著「英国歩兵練兵書」に堀直虎が序文を書いたとあり、その序文が載っている。しかし、南郷茂光著「英国歩兵練兵書」という本の存在が今のところ確認できない。(南郷茂光=浅津富之助)

以上

赤松小三郎研究会 事務局 小山平六（62期）